

第5学年 道徳学習指導案

指導者 新川 靖

- 1 日時 平成17年9月28日(水) 第5校時
- 2 学年 第5学年 28名
- 3 主題名 生命尊重 3-(2)生命尊重
- 4 資料名 「命の一滴」 (自作資料 文庫本 プロジェクトX「命の一滴」をもとに)
- 5 主題設定の理由

3-(2)「生命尊重」は生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する内容項目である。命に関する様々な表現がマスメディアや媒体を通して行われる現代であっても、命が大切でかけがえのないものであるのは自明のことである。しかし、現代社会に生きる私たちにとって、平素、生きていることの素晴しさを感じるのは、けがや病気をしてつらい思いをしたときであることが多い。また、命の重みを感じるのは、家族や親戚が亡くなってしまったときである。児童の中には、その経験をつんでいないものも多い。命の尊さを実感したり、命について考えたりすることを意識的に行っていくことは現代社会に生きる子ども達にとって大切なことではないかと考える。

近年起こっている様々な犯罪を見ていると、現代において自他の命を粗末にし、軽んじている風潮があるように感じる。しかし、一方、世の中の多くの人々は互いの命を尊重し、支えあっている。児童たちに命を大切にしようとしているこれらの人々の生き方を知らせ、考えさせ、社会の一員として互いの命を大切にしていこうとする態度を養うのは大変重要なことである。そして、そのような行動の原点として「互いの命を支えあうのは、命が二度と戻らない大切なものだから」という考え方をしっかりと身に付けさせていきたい。

本資料は、慢性骨髄性白血病と骨髄バンクの創設に関係のある人々を取り挙げたものである。ここでは、骨髄バンクがなぜできたのかという物語と国内の非血縁者による初の骨髄移植について描かれている。前半では、生きたいと願いながらもかなわなかった少女の気持ち、そして、それを助けることができなかった周りの人々の悲しみと骨髄バンク創設への思いが描かれている。後半では初の骨髄移植に提供者として前例のないことに向かうリスクにおびえながらも命の大切さに決心をする男性の姿が描かれている。自他の命を大切にしていきたいという人々の物語である。白血病で命を落としてしまった少女や周りの人々の悲しみを感じさせることで、人が死ぬことの重さについて感じるができるであろうと考える。

本学級の児童は、明るく元気で何事にも興味を示し積極的である。低学年時の生活科での飼育活動やそれまでの飼育経験などが多いことから、生き物の死については生活経験の中で体験したことが多い。しかし、人の命については、身近な肉親の死を経験した児童もいるものの、「生きる」ということ、「死ぬ」ということについて感じることの少ない生活を送ってきている。ただ、一方で5年生になり高齢者の方との交流を持っており、人の命の尊さや愛しさについて感じている。これから、人や生きものの死や生、生き方について今までの経験を統合しながら考えさせていきたい。

指導にあたっては、まず、慢性骨髄性白血病や骨髄バンクについて知らせたい。その中で、若くして亡くなった少女の無念を感じさせ命の重さについて感じさせる。そして、その上で、葛藤している主人公の心情と骨髄移植を決意した理由について考えたい。また、移植後に対面した時の気持ちを考えさせる。このことで人の命を大切にす人たちの心情を考えさせ、その気高さを感じさせたいと考える。

6 研究主題とのかかわりと授業のポイント

命を大切にし、将来に夢を持つ子どもの育成～総合単元的な道徳学習を核として～



感動と充実感のある授業づくり

児童の心に響く教材の精選，開発をする

・自作資料の作成

学習のまとめの工夫

・資料に題をつけることで今日の学習をふりかえり価値について自分なりのまとめをする。

7 本時のねらい

日本で初の骨髄移植の提供者となった男性の行動を通して，命の重みについて考え，自他の命を大切にしていこうとする心情を養う。

8 準備物 スクリーン，プロジェクタ，ワークシート

9 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問（ ， ） 予想される児童の反応	指導上の留意点（ ） 評価の観点（ ）
導入 1分	1 日常の楽しい出来事について話を する。	楽しい時ってどんなときかな？ ・遊んでいるとき ・寝ているとき ・家族で出かけるとき	自由に意見を出させ，雰囲気づくりをするとともに，本時への方向づけをする。
展開 前半 30分	2 資料を聞いて話し合う。	白血病について知り，骨髄バンクの意味と役割について知る。 田中さんはどうして，骨髄の移植をするのをやめようと思っているのだろう。 ・ こわい。 ・ 会社を休まなくてはいけない。 ・ 会うこともない人のためだから。 ・ もしかしたら自分が死ぬかもしれない ・ 自分が死んでしまったら家族が困る。 このような気持ちがあるのになぜ田中さんは骨髄の移植をしようと決心したのだろう。 ・ 人の命は大切だから。 ・ もし，その人が死んでしまったら後悔するから。 ・ もしその人の命が失われてしまったら2度とは戻らないから。 ・ その人は一生懸命生きたいと願っているはずだから。	<u>スライドを提示しながら資料を読む。</u> 資料の内容を理解しているか。 意見交流を通して骨髄移植への不安を持つ田中さんの心情に共感させると共にそれもまた当たり前の感情であることに気づかせる。 ワークシートを書く時間を取り，なぜ，不安な気持ちに打ち勝つことができたのかしっかりと考えさせる。 命の重みを考えて骨髄移植を決心した田中さんの気持ちを考えることができたか。

		<p>自分が骨髄を移植した相手の橋本さんと初めて出会って握手したとき、田中さんはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 元気になってくれてよかった。 ・ あの時、骨髄移植をやめなくて良かった。 ・ これから、いろいろなことをして行って欲しい。 	再開したときの田中さんの気持ちを考えさせることで、命を守ることができた喜びに共感させる。
展開後半 10分	3 登場人物への感想を交流する。	今日学習をして感じたことをふりかえってみましょう。	机間指導を行い、書きにくい児童には、自分のこれまでの様子と比べさせながら、自分はどうありたいかという視点を持って書くように声をかける。 主人公たちの生き方に共感し自分を振り返ることができたか。
終末 3分	4 今日の話に題をつける	今日みんなが考えた田中さんのお話に題をつけるとしたらどんな題をつけますか。	<u>題をつけることで今日の話</u> <u>をふりかえり価値について考</u> <u>えさせる。</u>

10 板書計画



決心した理由

- ・ 人の命は大切だから。
- ・ もし、その人が死んでしまったら後悔するから。
- ・ もし、その人の命が失われてしまったら二度とは戻らないから。
- ・ その人は一生懸命生きていと願っているはずだから。

やめたい

こわい。

会社を休まなくてはいけない。

会うこともない人のためだから。

もしかしたら自分が死ぬかもしれない

自分が死んでしまったら家族が困る。

初めての骨髄バンクによる移植

慢性骨髄性白血病

さゆりさん

- ・ もっと生きていたい。
- ・ 死んでしまいたくない。

元気になってくれてよかった。

あの時、骨髄移植をやめなくて良かった。

これからいろいろなことをして行って欲しい。

